

# 日本版ISAの道 その83

NISA元年も残り1カ月を切る中、NISAで何に投資する？  
先月人気だったのは既存投資家がグローバル債、新規投資家がアセットアロケーション柔軟型やグローバル債、ネット証券でREITと日本株とグローバル株!!

※国際投信投資顧問 投信調査室がお届けする、日本版ISAに関する情報を発信するコラムです。

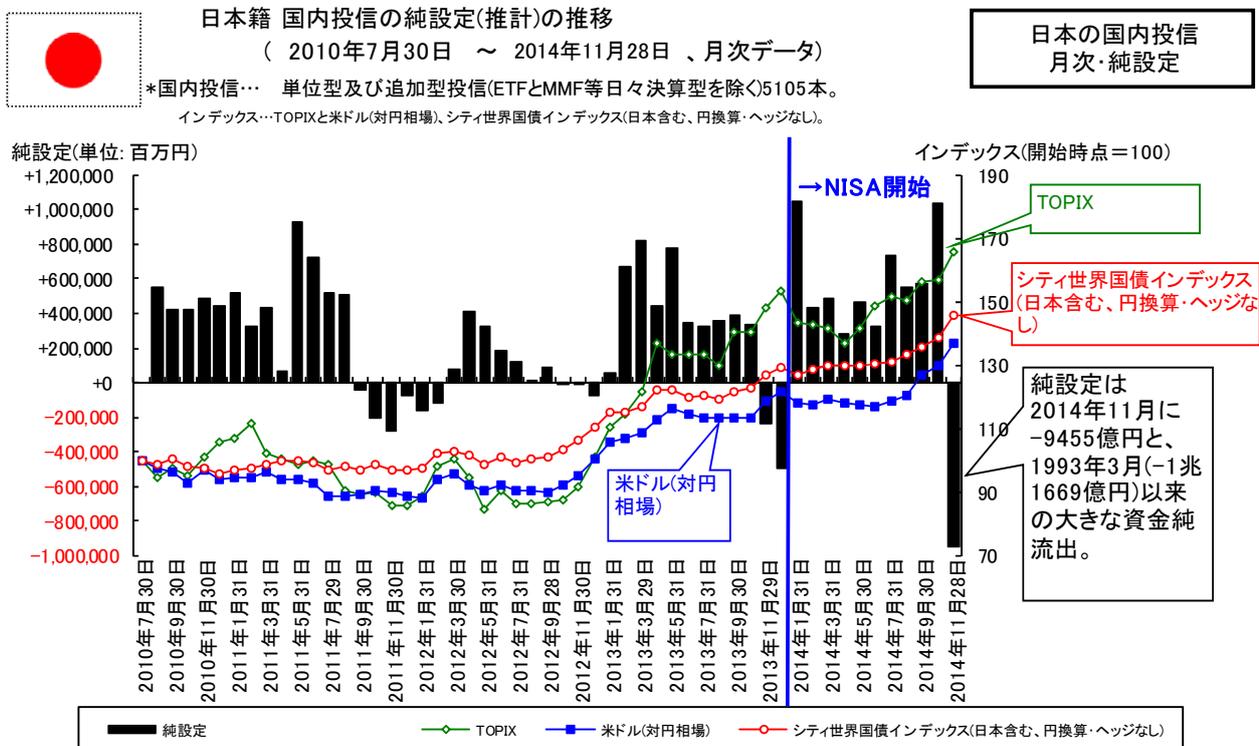
## NISA 元年も残り 1 カ月を切る中、NISA で何に投資する？

NISA(少額投資非課税制度)元年の 2014 年も残り 1 カ月を切った。NISA 投資のタイムリミットが意識される中、投資の未経験者や久しぶりに投資を始めようとする人はもちろん、投資経験者にとっても、これまで NISA 口座では実際、どのようなものに投資されてきたかは参考になるだろう。そこで今回は、先月 11 月までの NISA のファンド動向を見る。

### 先月、既存投資家に人気だったのはグローバル債

NISA のファンド動向を見るにあたって、投資家を、既存投資家と投資の未経験者層(新規投資家)とに分ける。前者の既存投資家は NISA で実際に投資をしている投資家の大半を占めているとされるが、それを投信全体の動向で代替し、後者の新規投資家は NISA 向けファンド(後述※1 参照)で代替する事とする。

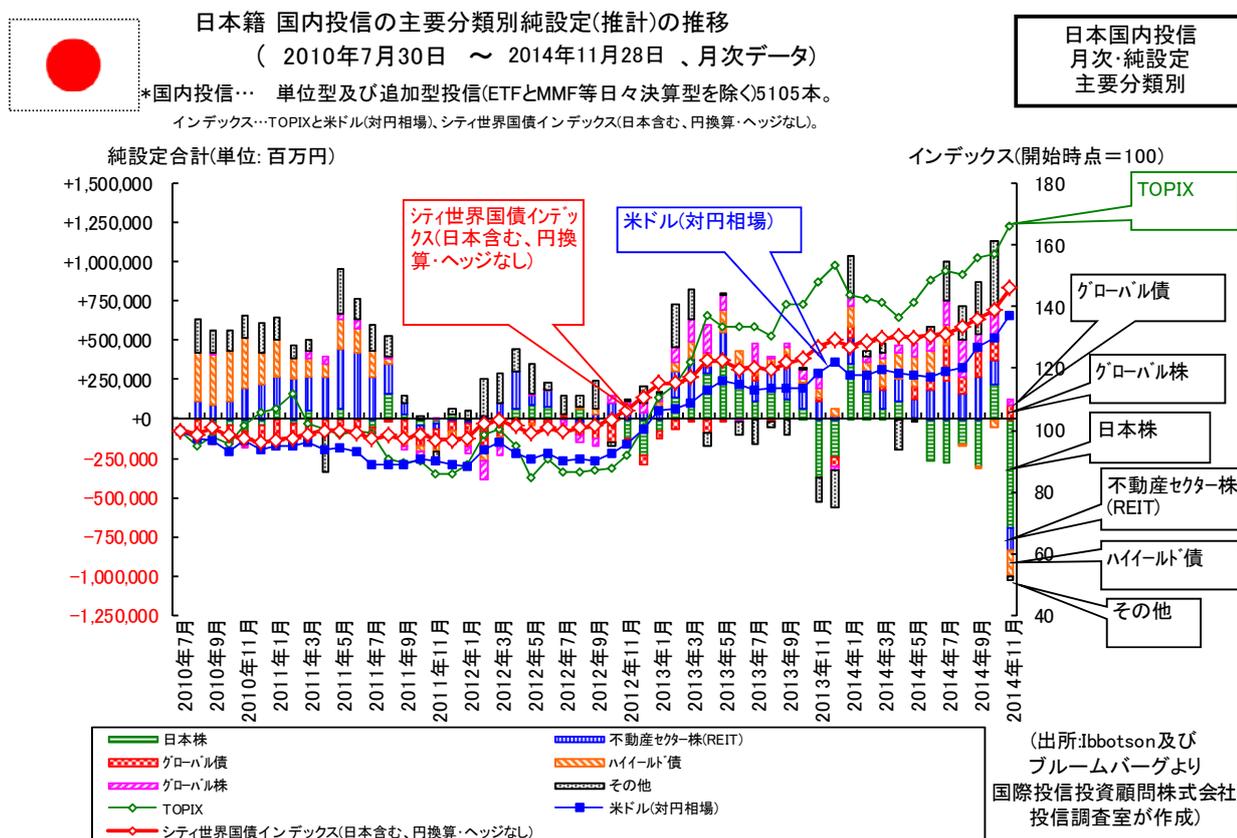
まず前者の既存投資家であるが、投信全体の純設定推移を見ると、前月 10 月は 1 兆円超えとなったものの 11 月は一転、推計で約-9455 億円という、1993 年 3 月(-1 兆 1669 億円)以来の大きな資金純流出だった(投信全体…国内の単位型及び追加型投信で、ETF と MMF 等日々決算型は除く)。



(出所:ブルームバーグ、Ibbotsonより国際投信投資顧問株式会社投信調査室が作成)

一年前 2013 年 12 月の軽減税率終了にかけても、投信の解約は膨らんだが、2014 年 11 月の純流出額は、それを上回る大きさだ。この 2014 年 11 月の既存投資家の純設定を、投資対象(主要分類)別で見る。2014 年 11 月に最大の純流出は日本株である(投信全体の純流出額の 7 割超を占めた)。日本株は 9 月に 2014 年 1 月以降で最大の純流出だったが、10 月は 5 カ月ぶり純流入で、純流入額は全 31 分類で最も大きかった。

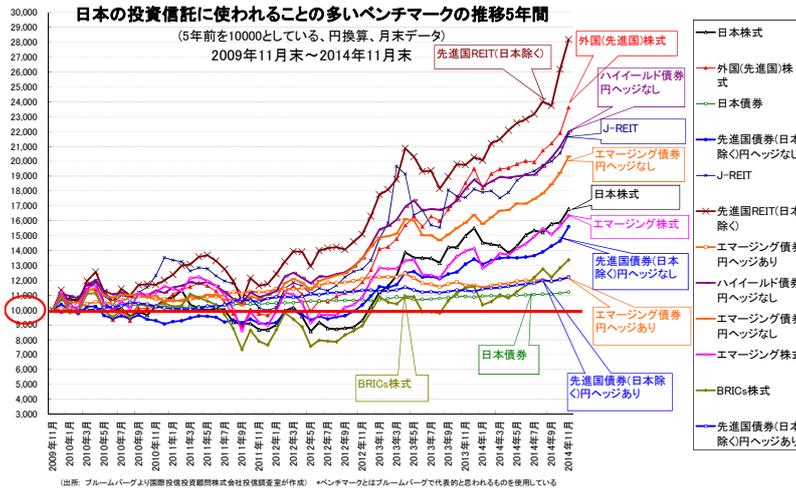
下記グラフは、2014 年 11 月末時点の純資産の大きい 5 分類とその他について、純設定(推計)の推移をみたものである(前月までのコラムでは 2013 年 12 月末時点の純資産の大きい 5 分類を主要分類としていたが、純資産の変動を直近まで反映した。前月については 2014 年 11 月 10 日付日本版 ISA の道 その 79 を参照(後述 URL[参考ホームページ])。2014 年 11 月に投信全体の大きな純流出を牽引したのは、先述したように日本株だったが、次いで純流出の大きかったのはハイールド債、不動産セクター株(REIT)、エマージング債だった(\*エマージング債は「その他」に含まれる)。不動産セクター株(REIT)は、2014 年の年初来(1~11 月)に 1.5 兆円の純流入となり、2014 年に最も人気だったが、11 月は 2012 年 8 月以来の資金純流出となった。2014 年前半まで REIT ファンドと並び NISA で人気の続いていたハイールド債は、足元で純流出傾向が継続中である。



過去最大級の純流出の中で資金を集めたものは、グローバル債、日本債、米国大型ブレンド株、日本マネープール、アセットアロケーション柔軟型だった(\*グローバル債以外は下記グラフでは「その他」に含まれる)。

このうち米国大型ブレンド株は、純流入のなかにはこの分類に含まれる「エネルギー版 REIT(不動産投資信託)」とも言われる MLP 人気によるものもあるが、純流入額の大きさは前月 10 月から 3 分の 1 程度に減ってはいる(MLP については 2014 年 11 月 10 日付日本版 ISA の道 その 79 を参照(後述 URL[参考ホームページ])。

先月 11 月に日本株を中心とする純流出が大きかった背景だが、「10月末の日銀の追加金融緩和を受けた急激な円安・株高で国内株式ファンドの基準価額も大きく上昇し、いったん売却する動きが出やすかった。」(2014 年 12 月 3 日付けモーニングスタージャパン～URL は後述[参考ホームページ])という可能性がある。投信に使われることの多いベンチマークを見たのが下記グラフである。パフォーマンスの好い順に、先進国 REIT、先進国株式、ハイイールド債券、J-REIT、エマージング債券、国内株式などとなっている(\*5 年前を 10000 としている、円換算、月末データ)。



## 先月、新規投資家に人気だったのはアセットアロケーション柔軟型やグローバル債

次に新規投資家であるが、NISA 向けファンド(後述※1 参照)の純設定を見ると、最新 2014 年 11 月は-330 億円と既存投資家(投信全体)と同様、NISA 投資が始まった 2014 年 1 月以来初の資金純流出だった。

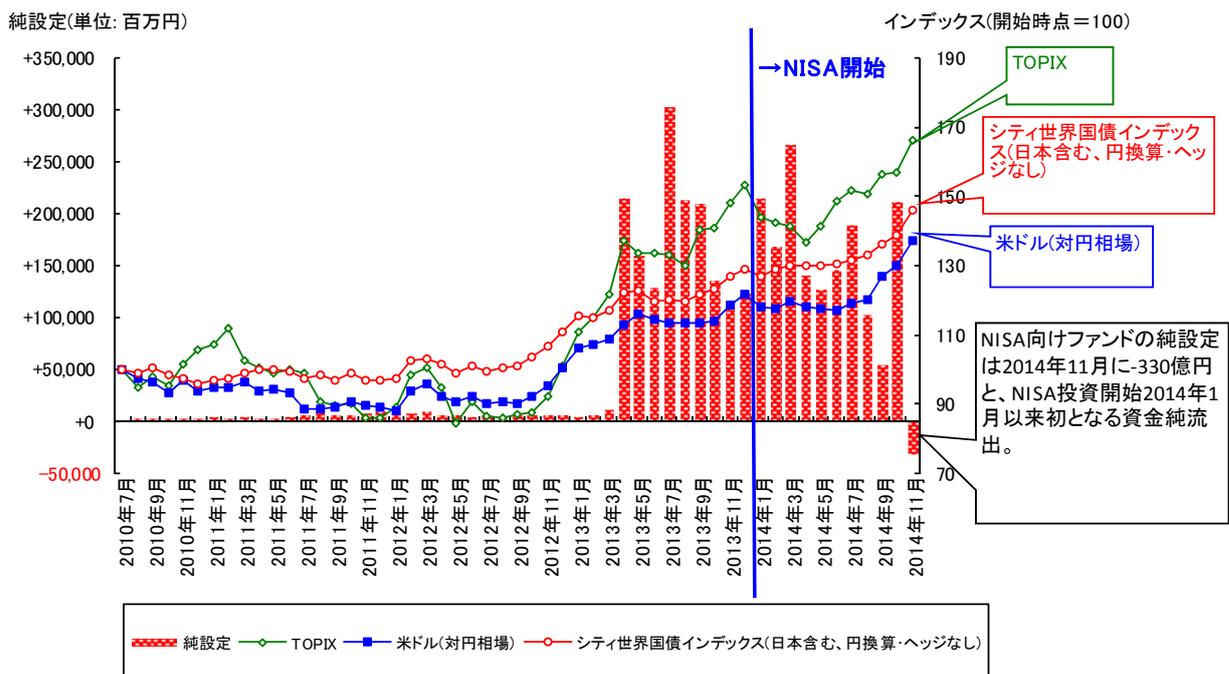


日本の NISA 向けファンド(ETFを含む追加型)の純設定(推計)の推移  
( 2010年7月30日 ~ 2014年11月28日、月次データ)

\*NISA向けファンド(ETFを含む追加型)… 2014/11/28 現在720本ある現存ファンドについて。

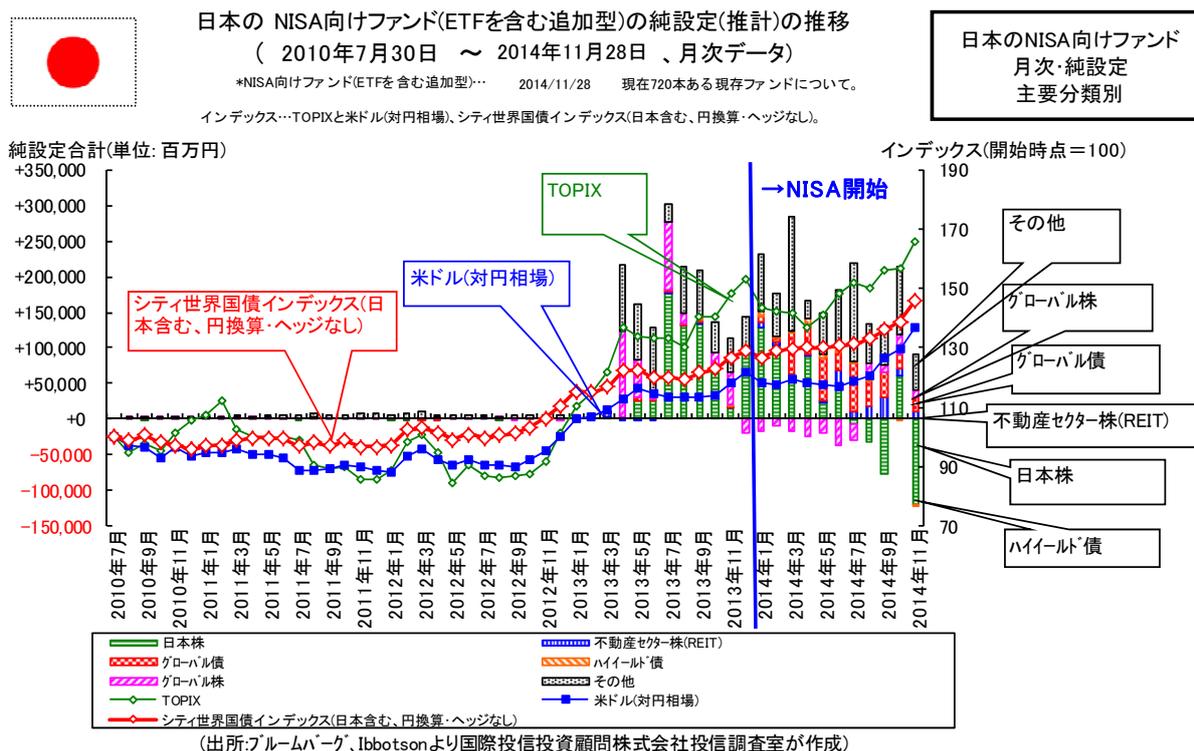
インデックス…TOPIXと米ドル(対円相場)、シティ世界国債インデックス(日本含む、円換算・ヘッジなし)。

日本のNISA向けファンド  
月次・純設定



(出所:ブルームバーグ、Ibbotsonより国際投信投資顧問株式会社投信調査室が作成)

この新規投資家と思われる投信の先月 11 月の純設定を、投資対象(主要分類)別に見る。既存投資家(投信全体)と同様、日本株ファンドが NISA 投資開始(2014 年 1 月)以来で最大の純流出となった。その中で、純流入のものをみると、1 位は米国大型ブレンド株(前月 2 位)、2 位はグローバル債(前月 5 位)、3 位はアセットアロケーション柔軟型(前月 4 位)、4 位は不動産セクター株(REIT) (前月 7 位)、5 位はグローバル株(前月 3 位)となっている(\*米国大型ブレンド株、アセットアロケーション柔軟型は下記グラフでは「その他」に含まれる)。2014 年の年初来(1~11 月)の純流入額の 1 位がアセットアロケーション柔軟型、2 位がグローバル債、3 位が日本株であることを合わせみると、新規投資家では、アセットアロケーション柔軟型やグローバル債ファンドが安定した人気の様だ。



※1: 「NISA 向けファンド」…投資信託協会の言う「NISA 向けのファンド(\*分配頻度が低いファンド、低コストのファンド、バランス型ファンド)」を参考にしながら(URL は後述[参考ホームページ])、2013 年 11 月末時点の契約型公募投信純資産が 1 兆円以上ある投信会社 17 社(\*全 84 社の約 90%を占める)の株式投信(ETF を含む)で「NISA 向け」、「NISA 専用」、「NISA で選ぶ」、「NISA におすすめ」などと紹介されているファンド、それに加え、2013 年 4 月以降に設定された分配頻度が低いファンドやバランス型ファンドとしている。なお、2013 年 4 月以降と言うのは、NISA が含まれる税制改正(関連)法が 2013 年 3 月 30 日に成立・政省令公布されたため。尚、単位型・限定追加型・年 1~2 回分配以外のファンド・DC・SMA・ミリオン(従業員積立投資プラン)を含めていない。ただ、同じシリーズが該当している場合は年 1~2 回以外を含めている。しかし、通貨選択型については、年 1~2 回以外を除いている(\*マネー・プールは年 1~2 回でも除いている)。こうした「NISA 向けファンド」を抽出した所、2014 年 11 月 28 日時点で 720 本となった。

## 先月、ネット証券で人気だったのは REIT と日本株とグローバル株

最後に、金融機関各社が発表する実際の投資動向を概観する。2014年12月5日現在で、各社HP(口座保有者限定の閲覧サイトは除く)に公表されている最新 NISA・投資信託動向である。ただ、ランキングを掲載している所は、ネット証券会社が多かった。ランキングの集計時期や方法は証券会社により異なるが、ここでは、どのような投資対象なのか傾向を見るため、ネット証券各社がHPで公表する最新の内容を参考まで紹介する。個別ファンド含む詳細については後述 URL[参考ホームページ]ご参照。また、1カ月前の状況については、2014年11月10日付日本版ISAの道 その79を参照(後述 URL[参考ホームページ])。

マネックス証券では11月のNISA口座における売れ筋ファンド(販売額)のベスト10を発表しており、1・3・5位は不動産セクター(REIT)ファンド、2位グローバル株ファンド、4位日本株ファンドとなっている。前月1・3位は不動産セクター(REIT)ファンド、2位グローバル株ファンド、4・5位日本株ファンドだった。

最大手であるSBI証券は週間のランキングを発表しており、最新週11月24日から28日までの取引をもとにしたNISAの投資信託・買付金額の1・5位は不動産セクター(REIT)ファンド、2位アセットアロケーション積極型、3位は日本株ファンド、4位グローバル株ファンドとなっている。約1カ月前の10月27日から31日までの取引をもとにしたNISAの投資信託・買付金額の1・3位は不動産セクター(REIT)ファンド、2・5位は日本株ファンド、4位アセットアロケーション積極型だった。

楽天証券も週間ランキングを発表しており、11月24日から28日のNISA投資信託・買付金額の1・2・5位は不動産セクター(REIT)ファンド、3位は日本株ファンド、4位はグローバル株ファンドとなっている。約1カ月前の10月27日から31日のNISA投資信託・買付金額の1・2位は不動産セクター(REIT)ファンド、3・4位は日本株ファンド、5位はグローバル株ファンドだった。

11月も10月同様、REITファンドとグローバル株ファンドと日本株ファンドに人気だった様に見える。

買付ランキングを一般のHPに公表している金融機関は少ないため、年初から11月末にかけての買付に値上がり・値下がりを加えたNISA口座・保有残高ランキングを発表しているネット証券会社も参考として見る。

最大手であるSBI証券のNISAランキング・投資信託では、NISA導入から約11カ月後の11月28日現在、1~3位不動産セクター(REIT)ファンド、4位日本株ファンド、5位アセットアロケーション積極型となっている。前月10月31日では、1~3・5位不動産セクター(REIT)ファンド、4位日本株ファンドだった。

楽天証券のNISAランキング・投資信託では12月5日現在、1・2・4・5位不動産セクター(REIT)ファンド、3位日本株ファンドとなっている。約1カ月前の11月6日現在は、1・3位不動産セクター(REIT)ファンド、2位グローバル株ファンド、4位グローバル債ファンド、5位アセットアロケーション型だった。

以上、NISAにおける投資信託の最新動向だった。引き続きデータや報道、各社ホームページ等をしっかり見てNISA動向を判断していきたい。

[参考ホームページ]

2014年11月10日付日本版ISAの道 その79「NISA 元年も残り2カ月を切り、タイムリミットが迫る中、NISAで何に投資する? 10月の人気は、既存投資家が日本株・米大型ブレンド株(MLP)・グローバル株で、新規投資家が日本株・アロケーション柔軟型・グローバル債!」…「<http://www.kokusai-am.co.jp/news/jisa/pdf/141110.pdf>」、

2014年1月8日付投信協会メールマガジン「NISA 向けのファンドって?」…

「<http://www.toushin.or.jp/mailmag/>」、

2014年12月3日付けモーニングスタージャパン「97年4月以降最大の9877億円流出、国内株式ファンドで利益確定売り強まる—11月推計資金流出入」…

「<http://www.morningstar.co.jp/msnews/news?rncNo=1443963&newsType=fund>」、

マネックス証券のNISA 月間売れ筋ランキング・投資信託・販売金額…

「<https://fund.monex.co.jp/rankinglist#NisaMonthlySales>」、

SBI証券のNISA ランキング・投資信託・保有残高…「<https://www.sbisec.co.jp/>」、

楽天証券のNISA ランキング・投資信託・残高…「<https://www.rakuten-sec.co.jp/nisa/>」。

以上  
(投信調査室 松尾、窪田)

## 本資料に関してご留意頂きたい事項

本資料は日本版ISA(少額投資非課税制度、愛称「NISA/ニーサ」)に関する考え方や情報提供を目的として、国際投信投資顧問が作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。なお、以下の点にもご留意ください。

- 本資料中のグラフ・数値等はあくまでも過去のデータであり、将来の経済、市況、その他の投資環境に係る動向等を保証するものではありません。
- 本資料の内容は作成基準日のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 本資料は信頼できると判断した情報等をもとに作成しておりますが、その正確性、完全性等を保証するものではありません。
- 本資料に示す意見等は、特に断りのない限り本資料作成日現在の国際投信投資顧問 投信調査室の見解です。

### 本資料中で使用している指数について

・東証株価指数(TOPIX)は、(株)東京証券取引所及びそのグループ会社(以下、「東証等」という。)の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利・ノウハウは東証等が所有しています。

・シティ世界国債インデックスは、Citigroup Index LLCにより開発、算出および公表されている債券インデックスです。